

高島高等学校令和5年度 地理歴史 世界史B（必修選択）年間授業計画

教科：社会科 科目：世界史B 単位数：4単位

対象学年組：第3学年4&6組

教科担当者：橋本 真美

使用教材：教科書（世界史B：山川出版） 資料集（新世界史図説タペストリー：帝国書院）
 問題集（10分間テスト：山川出版 & 総合マスター：浜島書店）

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	序章 先史の世界 第1章 オリエントと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明	<ul style="list-style-type: none"> ・人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解させる。 ・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解させる。 ・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解させる。 	観点：西アジア世界の地理的特質、オリエント文明、イラン人王朝の活動とその文明、古代ギリシア・ローマ文明の特徴を理解し、その基本的な知識を身につけているか。 方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。	10

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	第3章 内陸アジア・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解させる。 ・内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解させる。 ・イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解させる。 ・地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解させる。 	<p>観点：内陸アジアの動向やイスラームの特質やその形成過程、東方への拡大と西方における変容、ゲルマン人の移動やノルマン人諸民族の侵入による影響、フランク王国とローマ教皇の提携の意義などの基本的な知識を身につけているか。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。</p>	13

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	第6章 内陸アジア・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄 第12章 アジア諸地域の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解させる。 ・中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解させる。 	観点：ヨーロッパ列強のアジア進出に対する、オスマン・ムガル・清帝国などのアジア諸国の動揺と改革や日本の動向について理解し、その知識を身に付けているか。 方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。	11

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
7 月	第12章 アジア諸地域の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解させる。 	<p>観点：ヨーロッパ列強のアジア進出に対する、清帝国のアジア諸国の動揺と改革や日本の動向について理解し、その知識を身に付けているか。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。</p>	2

8月	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
				0

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解させる。 ・ 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解させる。 ・ 欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解させる。 ・ 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解させる。 ・ 国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解させる。 	<p>観点：第一次世界大戦の原因・性格・影響や、ロシア革命の展開、国際連盟の役割、ヴェルサイユ・ワシントン体制の特徴、アジア諸国の民族運動の高揚などを理解し、その知識を身に付けているか。また、世界恐慌の原因と影響、各国の恐慌対策、ファシズム台頭の背景と経過、第二次世界大戦の原因や性格を理解し、その知識を身に付けているか。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。</p>	8

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10 月	第15章 冷戦と第三世界の独立	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解させる。 ・中華人民共和国の成立や朝鮮の分断、アジア諸地域の独立の過程を理解させる。 ・朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解させる。 ・戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解させる。 ・米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解させる。 ・冷戦終結の過程及びグローバル化の特質について理解させ、現代社会に与えた影響と課題について考察させる。また、地域統合やナショナリズムの強化について、各地域を比較して基本的知識を理解させる。 	<p>観点：米ソの対立による冷戦体制がヨーロッパでの東西対立だけでなく、アジア各地にも大きな影響を与えたことを把握し、各地域の戦後の動向を大まかにつかんでいるか。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。</p>	14

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	第16章 現在の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ドル＝ショック，オイル＝ショック以降の国際経済の再編，冷戦の終結への流れを理解させる。 ・東欧社会主義圏の消滅，ソ連邦の解体と民族紛争，グローバル経済の進展を理解させる。 	<p>観点：20世紀という時代に19世紀までとは性格の異なる人類史的特質を見だし、社会の急激な変化の具体的な様相と関連付けて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。</p>	15

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	大学入試問題を活用して、既習範囲を復習し、基礎・基本の定着を図る。	・基本事項を丁寧に確認させながら、テーマ別・時代別問題演習を行い、実践力を養う。	<p>観点：演習を通して、忘れていた部分や苦手な部分を洗い出し、基礎基本を丁寧に見直すことができているか。また、各自の学習計画を振り返り、修正しながら学習に取り組んでいるか。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなど内容を加味して総合的に評価する。</p>	4

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	<p>大学入試問題を活用して、既習範囲を復習し、基礎・基本の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本事項を丁寧に確認させながら、テーマ別・時代別問題演習を行い、実践力を養う。 ・年表や地図の活用を促し、空間軸と時間軸を意識させながら、諸資料を比較検討するとともに正確な歴史事象を身につけさせる。 	<p>観点：演習を通して、忘れていた部分や苦手な部分を洗い出し、基礎基本を丁寧に見直すことができているか。また、各自の学習計画を振り返り、修正しながら学習に取り組んでいるか。</p> <p>方法：ノートや課題作成、確認テストなどを加味して総合的に評価する。</p>	4

2月	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	世界史演習の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月				